

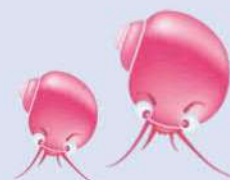
スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)

形態： 大型の巻貝で、成長すると殻高8cmに達する。殻の色は黄褐色から黒褐色、黒色に近いものであり、10～15本の色帯を有する。

生態と被害： 原産はアルゼンチンといわれ、1981年頃より養殖用として日本に導入され、それが逃げ出して野生化した。母貝は夜間水辺の植物の茎、杭、コンクリートの壁面などに登り、400粒ほどの紅色の卵塊を産む。卵～成貝までは約2～3か月で、寿命は3～5年といわれる。イネ、イグサ、レンコン、ミズイモ、マコモ等への加害が認められる。被害は6葉期頃までである。

防除の

- ポイント：
- **産卵直後の卵塊を水中へかき落とす。**
 - **冬期に耕起して越冬個体を減らす。**
 - **イネが若い間は浅水管理にする。**
 - なお、パダン[®]は食害防止が主体であって、殺貝効果はない。



スクミリンゴガイ 主な登録薬剤

2021.4

薬剤名	成分名	効果	作物名	使用薬量	使用時期 / 使用方法	本剤の使用回数
 スクミノン	メタルデヒド	殺貝	稲	1～4kg/10a	収穫60日前まで	2回以内
			れんこん	4kg/10a	収穫45日前まで	2回以内
 スクミンベイト3	燐酸第二鉄	殺貝 + 食害防止	稲	2～4kg/10a	発生時 発生時 / 無人ヘリコプターによる散布	-
			れんこん	4kg/10a	発生時 発生時 / 無人ヘリコプターによる散布	

スクミノン 薬剤散布のポイント

1. 散布のタイミングを見極めましょう！

ジャンボタニシが摂食活動をはめるのは水温が15℃以上になってからです。平均気温が15℃を上回る時期以降、水温やジャンボタニシの活動を確認してから散布しましょう。

2. 薬剤散布後少なくとも3～4日は水深3～5cmを保ちましょう！

スクミノン等の薬剤の効果を実際にするため、薬剤散布後少なくとも3～4日は、水深3～5cmに保つようにしましょう。薬剤散布後は水の出入りを少なくし、田面を静かに保ちましょう。

3. 食害防止剤との併用には注意しましょう！

食害防止剤(パダン[®]粒剤4等)を先に(又は同時に)使用すると、ジャンボタニシの摂食行動が鈍り、スクミノン等の薬剤の効果が発揮されません。併用する場合には、食害防止剤の効果が切れてから使用しましょう！